

[成果情報名] 静岡県のシロネギほ場における土着天敵

[要 約] 県内のシロネギほ場では、多種類の土着天敵が発生する。

[キーワード] ネギ、生物多様性、土着天敵、ネギアザミウマ

[担 当] 静岡農林技研・植物保護科

[連絡先] 電話 0538-36-1556、電子メール agrihogo@pref.shizuoka.lg.jp

[区 分] 生産環境（病害虫）

[分 類] 技術・参考

[背景・ねらい]

近年、ネギ属作物ではネギアザミウマが多発し被害が増加しているが、化学農薬のみによる防除には限界があり、土着天敵を活用した新しい防除技術が求められている。そこで、シロネギ圃場におけるネギアザミウマ等の害虫に対する土着天敵相を明らかにした。

[成果の内容・特徴]

- 1 地上徘徊性クモ類では、コモリグモ科、サラグモ科、カニグモ科、ハエトリグモ科などが発生する（表1）。このうちコモリグモ科が最も多く、サラグモ科がこれに次ぐ。コモリグモ科のうちウヅキコモリグモが主で、作型や地域に関係なくシロネギ圃場で見られ、圃場内で繁殖している。
- 2 ネギ株上のクモ類は、サラグモ科、コガネグモ科、ヒメグモ科、アシナガグモ科が主である（表2）。
- 3 カメムシ類では、ヒメオオメカメムシ、ヒメハナカメムシが発生する（表1）。
- 4 コウチュウ類では、オサムシ科アオゴミムシ亜科のオオアトボシアオゴミムシ、アトワアオゴミムシ、キボシアオゴミムシ、アリ類では、クロヤマアリ、トビイロシワアリ、ハサミムシ類では、オオハサミムシなどが発生する（表1）。
- 5 ネギ株上にはカブリダニ類が発生し、主要種はコヤマカブリダニとヘヤカブリダニである（表2）。
- 6 土着天敵の主な発生時期は、ヒメオオメカメムシ、ゴミムシ類、オオハサミムシが7～10月、カブリダニ類、クモ類では8～11月である（図2）
- 7 土着天敵はムギ間作を行うと発生量が増加する場合がある（データ略）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 土着天敵の発生は、地域や圃場周辺の環境、使用農薬、作付時期などにより異なる可能性がある。
- 2 土着天敵を安定的に防除に利用するためには、ムギ間作などの他ほ場外の環境整備や利用可能な農薬の選定など保護・活用技術を開発する必要がある。

[具体的データ]

表1 シロネギ圃場に設置したピットフォールトラップに捕獲される主要な土着天敵

クモ目	コモリグモ科(ウヅキコモリグモ、キクヅキコモリグモ) サラグモ科(セスジアカムネグモ、ニセアカムネグモ、ノコギリヒザグモ) 他科(カニグモ科、ハエトリグモ科)
カメムシ目	ヒメオオメカメムシ ヒメハナカメムシ
コウチュウ目	オサムシ科(オオアトボシアオゴミムシ、アトワアオゴミムシ、キボシアオゴミムシ) ハネカクシ科(ヒゲブトハネカクシ亜科、ハネカクシ亜科、セスジハネカクシ亜科)
ハチ目	アリ科(クロヤマアリ、トビイロシワアリ)
ハサミムシ目	オオハサミムシ

表2 シロネギ株上から捕獲される主要な土着天敵

ダニ目	カブリダニ科(コヤマカブリダニ、ヘヤカブリダニ)
クモ目	サラグモ科、コガネグモ科、ヒメグモ科、アシナガグモ科

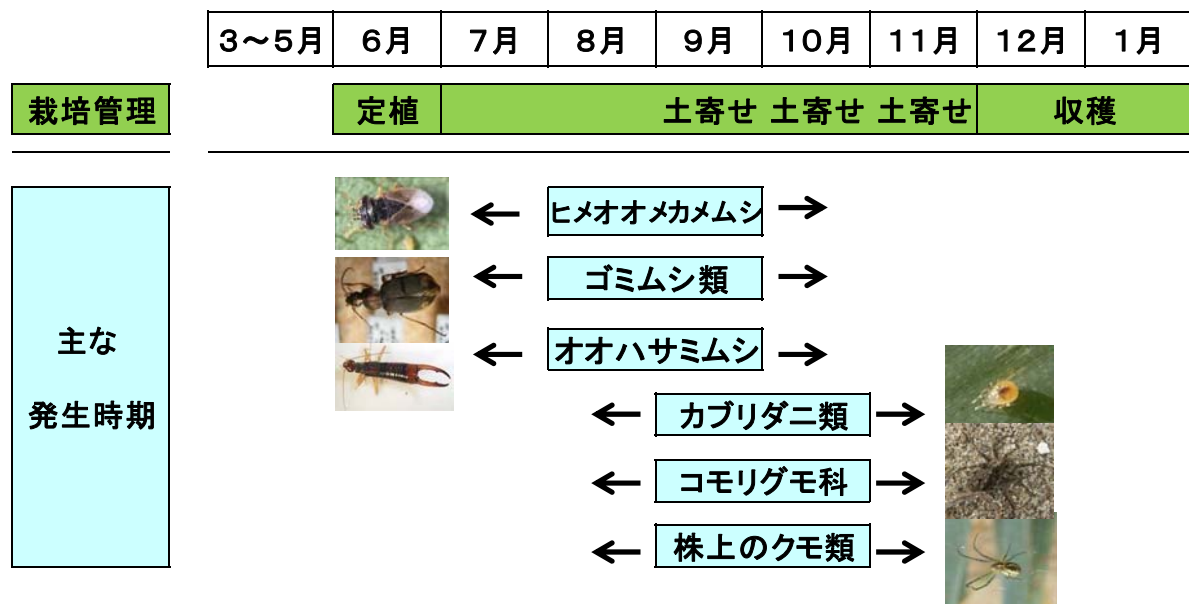


図1 シロネギ圃場における主要土着天敵の主な発生時期

[その他]

研究課題名：ネギ属作物におけるアイリスイエロースポットウイルス等病害の発生生態
 解明と生物多様性保全によるネギアザミウマの総合防除技術の開発

予算区分：国庫（生物多様性プロ）

研究期間：2008-2011年度

研究担当者：土井誠、土田祐大、片井祐介、増井伸一、万年潤哉、芳賀一、内山徹、影山智津子

発表論文等：